

税理士の ひとりごと

No. 128

寛容になりたい

税理士 齋藤明

そういえば昔いましたね。ロシアの女性デュオも、A.T.U.（タトゥー）なんて歌手が。人気絶頂のなか初来日を果たし、「ミュージックステーション」という生放送の音楽番組に出演するはずだった彼女らが、番組途中に忽然と姿を消してしまい番組は大混乱。その後に行なわれた記者会見でも一切謝罪の言葉はなく、「さすがにヒドイ」と日本中から大バッシングを受けたのです。私の記憶の中では、超人気者から一転大バッシングという事件はあれが最初だったような気がします。

ところが最近では、一転大バッシンググって事案、やたらと多くないですか？ 松本人志さんが文春砲で暴露された飲み会の一件もそう、大谷翔平選手の専属通訳だった水原一平氏の賭博による使い込み疑惑もそう、いやいや、芸能人の不倫報道なんてそんなのばかりではありませんか。しかしそもそも、ひたむきにスポーツに取り組むスポー

ツ選手の姿や、清純な役で純愛を演じていた役者さんの演技を見た視聴者が、勝手にその人に対してクリーンなイメージを持つて見ていただけなのに、「嘘つき！」「ショックです！」「裏切られた気分だ！」「なんて言うのは、ずいぶんと独りよがりじゃないかと思うのです。さらに、「善人みたいな顔してテレビに出ていたくせに、けしからん！」「気持ち悪い！」「もう二度とテレビで顔を見たくない！」と匿名で大バッシングの攻撃をするのはアンフェアだと思ふし、理不尽ではないかと思うのです。

もちろん、私だって芸能人の乱痴気飲み会や、違法賭博や横領や、不倫を「そんなの全然問題ないじゃん」と言うほど感覚がズレているわけではありません。不愉快に思っているのは、自分とはまったく関係のない他人のプライバシーに干渉し、なおかつ、執拗に不寛容であること。西洋のように宗教上